ドラッカー・ブックレビュー

ドラッカー流トータルライフのすすめ

ブルース・ローゼンステイン／上田惇生監訳・井坂康志訳
『ドラッカーに学ぶ自分の可能性を最大限に引き出す方法』

評者　藤島秀記

本書の原題は“*Living in More Than One World*”である。監訳者の訳をそのまま流用すれば「複数の世界を生きる」であり、サブタイトルは「ドラッカーの知恵があなたの人生を変える」となる。この原書名により、この本の性格が一目瞭然となろう。

われわれはドラッカーから社会、組織そして両者の関係において、マネジメントがいかに重要であるか学んできた。そしていまも学んでいる。その理由を簡単にいえば、主体者が人間であるからだ。その主体者である個々人が、いかにしたら充実した人生を送れるかという大命題についても、ドラッカーはこれまでもわれわれに多くのヒントを与えてくれてきた。

本書の筆者ローゼンステイン氏は長年、ジャーナリストとしてドラッカーに接し、亡くなる７ヶ月前までドラッカーにインタビューした記録が残されている。こうしたジャーナリストの確かな目が「ドラッカー的生き方」を余すことなく語ってくれる。ドラッカー流のものの見方、考え方がページの随所にあふれている。

私も編集者として３０年以上もドラッカーの薫陶を受けてきたと一人であるが、この本から得られる「ドラッカー的人生観」の要諦があまりにも多いのに驚いている。

たとえばドラッカーは９５歳までにおおよそ４０冊の本を書いている。その中の３分の２の本が、なんと６５歳以上の歳で上梓されたことを改めて知ると、これだけでわれわれ高齢者に勇気と希望を与えてくれる。

本書は“ドラッカー流トータルライフのすすめ”ともいえる。トータルライフとは、いずれか一つに縛られない、人生を全体として見ることが肝要だという。家族も、友人も、学校も、会社も全体の輪の中に入れてとらえる。すなわち自分の住む世界を一つに限定しないことが必要になる。

自分のトータルライフをデザインするには、まず「トータルライフ・リスト」をつくることから始めよという。著者は本書の中で具体的にリストのサンプルを示しながら、作り方を手ほどきしている。重要なのはトータルライフ・リストは、何のためにつくるかを理解することである。自分のトータルライフを見直すには年齢の壁はない。何歳からでもヤルキがあれば「創世」の機会はある。要は「熟慮と創造性、変革への意志、未知なる世界への情熱」に尽きる。

この考え方から、ドラッカーは２つの人生を送るための貴重な指針を示してくれている。１つはパラレルキャリアをもつこと。２つはセカンドキャリアへの移行である。パラレルキャリアとは第２の仕事を持つことであり、「外の世界へ新たな窓を開けること」である。日本流に俗っぽくいえば“二足のわらじ”を履くこととともいえる。またセカンドキャリアとは、退職後をどう生きるかの問題である。自分がそれまで培ってきた経験、知識、スキルを、自己の価値観と社会に向けて発信できる仕事に転化させることである。

そこで求められるものは世俗的な成功ではなく、人としての成功ということに尽きる。

ドラッカーのこうした発言は、自らが「文筆家」「教育者」「コンサルタント」とトリプルキャリアを終生貫いただけに、その言葉のもつ含蓄は深く大きい。まさに“ドラッカー・スピリット”が随所に流れる人生読本として最適書である。

しかし一方で読書後感じるのは、日本の厳しい経済状況、雇用状況が落とす影の部分である。マクロ的困難な状況が個人の選択の幅を狭めているのも事実だ。しかし他方で「困難な状況であるからこそ自己の強みを磨いたトータルライフが必要なのだ」と、あの懐かしいドラッカーの声が聞こえてくるような気がする。

巻末にある訳者の作成した「年譜」と「訳注」も、“ドラッカー山脈”にはじめて分け入る人への案内役としても、その役割を十分に果たしていよう。